

Title	阪大法学 64巻 3・4号 巻頭の辞
Author(s)	竹中, 浩
Citation	阪大法学. 2014, 64(3-4)
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/71515">https://hdl.handle.net/11094/71515</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 巻頭の辞

平成二十六年三月三十一日、森藤一史先生と小野清美先生が大阪大学大学院法学研究科を退職されました。両先生の業績を称えるところにも、おふたりに対する私たちの感謝と惜別の思いを込めて、ここに「阪大法学」特集号を刊行し、両先生に捧げます。

森藤一史先生は、昭和四十六年三月岡山大学法文学部を卒業され、同年四月名古屋大学大学院法学研究科修士課程に進学、昭和五十一年三月に同博士課程を単位修得退学されました。引き続き、同年四月名古屋大学法学部に助手として採用され、同年十月大阪外国語大学講師、同助教教授を経て、平成八年一月同教授となりました。平成十九年十月大阪外国語大学が大阪大学に承継されたのにもない、大阪大学大学院法学研究科に配置換えとなりました。

教育面では、森藤先生は、政治学および日本政治思想史について、幅広く学部学生、大学院学生に對して指導をおこない、シャープな課題設定と強い教育的情熱により多くの有意な人材を育成されました。特に平成五年の大阪外国語大学の学科改組により設置された国際文化学科国際関係講座での教育と研究において、中心的な役割を果たされました。その成果は大阪大学法学部国際公共政策学科に引き継がれています。研究面では、先生は日本政治思想史を主たる研究領域とされました。なかでも

幕末の思想家・経世家である横井小楠の研究に力を注がれ、一九七〇年代末以降十数篇の論考を發表して日本における小楠研究をリードしてこられました。先生の小楠研究は、福井藩から江戸幕府を経て明治政府にいたる小楠の見解を、主として国際関係観と公共思想（その政策論）という視点から検討したものであると言うことができます。さらに、先生は、佐久間象山関連の数篇の論考によって、彼の国際関係観と危機認識、学問方法、および門弟・吉田松陰密航事件の具体的経緯を明らかにされ、象山と小楠という二人の言行と思想から、幕末維新期日本の政治と思想についてのふくらみのある知見を獲得されました。また先生は、大阪外国語大学での研究室横断的な共同研究に積極的に参与し、中心的存在としてこれを牽引されました。

学内の管理運営面においては、大阪外国語大学で多くの委員を歴任されましたが、とりわけ将来計画委員として、学部改革構想の具体化と確定に取り組み、平成五年度の改組を実現させたことは特筆に値します。さらに大阪大学では、全学委員会として教育課程委員会および教育実習等専門部会、適塾管理運営委員会の委員を務め、兼任教員として、外国語学部、言語文化研究科、大学教育実践センターに出講されました。また社会貢献としては、NPO法人メイプルプロジェクトの事務局長を担当されました。

小野清美先生は、昭和四十六年三月東京外国語大学外国語学部を卒業された後、昭和四十七年四月

東京都立大学人文学部に入学、昭和四十九年三月同大学を卒業、同年四月名古屋大学大学院法学研究科修士課程に進学、昭和五十四年三月に同博士課程後期を中途退学されました。引き続き、同年四月名古屋大学助手法学部に採用され、大阪外国語大学講師、同助教授、同教授を経て、平成十九年十月、大阪大学大学院法学研究科に配置換えとなりました。なお、平成九年三月には名古屋大学より博士（法学）の学位を授与されています。

教育面においては、先生は大学院生、学部生、留学生を問わず熱心な指導を行ってこられました。大学院教育では「ヨーロッパ政治史」などを担当し、先端的研究に基づく指導を通じて優秀な若手研究者の育成に尽力されました。学部教育では、大阪外国語大学、大阪大学外国語学部において、ドイツ語圏文化に関するさまざまな講義を担当され、大阪大学法学部においては「ヨーロッパ政治史」やセミナーを、全学教育推進機構における「政治の世界」を担当されました。研究面では、先生はドイツ近代政治史を専攻し、とりわけワイマル期を経てナチズムを生んだドイツの近代化について高水準の業績をあげられました。最初の著書である『テクノクラートの世界とナチズム——「近代超克」のユートピア——』は、専門分野を超えて注目を浴び、第九回和辻哲郎文化賞（学術部門）を受賞しました。さらにその後先生は、『保守革命とナチズム E・J・ユングの思想とワイマル末期の政治』『アウトバーンとナチズム——景観エコロジーの誕生——』といった著書を公刊されています。そのほか、先生はドイツ近代に関する重要な著書の翻訳にも精力的に取り組み、研究成果の普及に對して

多大の貢献を行われました。

学内運営の面では、大阪外国語大学時代に、会計委員、学生委員、入学者選抜方法研究委員を務められ、大阪大学大学院法学研究科に配置換えとなつてからは、入試委員、学生生活委員、教育課程委員会及び教育実習等専門部会委員として全学の管理運営に、さらに言語文化研究科、外国語学部兼任教員として、言語文化部及び外国語学部の管理運営に尽力されました。また学外においては平成五年度ドイツ現代史研究会事務局長、平成十五年度ドイツ現代史研究会代表を務め、学問分野における社会貢献に努められました。

このように、森藤先生ならびに小野先生は、長年にわたり大阪大学において教育・研究・学内行政、さらには社会貢献に尽力してこられました。ここに、両先生に対し、あらためて深い敬意と感謝を捧げるとともに、これまでと同様私たちに対してご指導を賜りますようお願い申し上げます。巻頭の言葉とします。

平成二十六年十一月

大阪大学大学院法学研究科長  
竹 中 浩